

CISPR シドニー会議 SC/F 審議結果

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1. 開会			・ 14 カ国からオブザーバーを含めて36名参加。(日本は5名)
2. 議事次第の承認	文書：CISPR/F/461B/DA	・ 状況を見て対処する。	・ 最新議題を承認(小修正あり)
3. ケープタウン会議議事録の確認	文書：CISPR/F/444/RM	・ 特にコメントなし。	・ 確認のみ
4. IEC 中央事務局からの情報		・ 情報を把握する。	・ 中央事務局からIECの最近のトピックについて紹介があった。
5. WGメンバー表の見直し		・ 最新リストを確認する。	・ スイスからの新メンバーの紹介があった。
6. WG1の新Co-convenor	・ WG1の前Co-convenor(Mr. van Leeuwe:オランダ)が辞任したので、新Co-convenor(Mr. Hughes:英国)がノミネートされている。	・ 承認する。	・ 承認された。
7. WG1のConvenorからの報告		・ 報告を聞く。	・ WG1コンベナのDr. Kloskaから測定周波数拡大などの課題についての検討状況についての報告があった。

8. CISPR14-1 関連の審議			
8.1 CISPR14-1, Am1, f1, Ed. 5 家庭用電気機器及び電動工具の測定周波数範囲の拡大	文書 : CISPR/F/453/CDV CISPR/F/XXX/RVC CISPR/F/423/CD CISPR/F/449/CC 現在の CISPR14-1 では測定周波数範囲は、電気玩具を除き、最高 300MHz までであるが、すべての機器について最高 1000MHz まで拡大しようとする CDV の投票結果の確認とコメントの審議	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国は電気掃除機や電動工具等、CISPR14 適用の機器については放射測定の際の機器の設置条件が明確になっていないため、時期尚早として反対投票している。 ・反対理由を説明し、一例として電気掃除機の設置条件を提案してさらに規格案を改善するよう働きかける。 ・放射電界の測定法として、FAR や TEM セルを OATS/SAC と同等と認めるのは相関性の検証が不十分なので反対との立場で臨む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CDV は投票結果では承認されたが、順序を繰り上げて審議された議題 13 の複数試験法の問題が CDV に含まれているためにそのままでは FDIS に進めない。複数試験法のうち基準とするものを WG で特定して DC により各国の意見を求めることになった。(この DC には本 CDV のみならず CISPR14-1 本体及び CISPR14-2 に含まれる複数試験法も包含される) ・最終の運営委員会の結果及び DC によって得られた各国のコメントを見て FDIS に進めるか、ステージゼロに戻して新たな CDV を発行するかが決定される。 ・日本が反対理由としてあげた、掃除機の放射妨害波測定時の試験条件が明確でないとの意見は、別のプロジェクトを立ち上げ、WG で一般条件を追加するとともに掃除機の試験条件について検討する。(日本をリーダーとし Convenor, Co-convenor, 韓国、ドイツ、オランダが参加して DC を作成)

<p>8.2 以下の4件を統合したCDV CISPR14-1, Am1, f2, Ed. 5 CISPR14-1, Am1, f3, Ed. 5 CISPR14-1, Am1, f4, Ed. 5 CISPR14-1, Am1, f7, Ed. 5</p>	<p>文書： CISPR/F/458/CDV CISPR/F/419/CD CISPR/F/440/CC (プロジェクト f2: CISPR14-1 に含まれていたアーク溶接機の試験条件を削除) CISPR/F/420/CD CISPR/F/441/CC (プロジェクト f3: 妨害波電力測定時の EUT の配置を CISPR16 と整合) CISPR/F/421/CD CISPR/F/442/CC (プロジェクト f4: 衣類乾燥機の試験条件の修正、及び炊飯器の試験条件の新設) CISPR/F/427/CD CISPR/F/443/CC (プロジェクト f7: 多機能コーヒーメーカーの試験条件)</p>	<p>・投票期限が12月21日のため、CDV発行の確認のみ。</p>	<p>・審議はなかった。</p>
<p>8.3 CISPR14-1, Am1, f5, Ed. 5 測定機器の不確かさ</p>	<p>文書： CISPR/F/460/CDV CISPR/F/422/CD CISPR/F/448/CC (測定機器の不確かさ条項の導入)</p>	<p>・投票期限が12月21日のため、CDV発行の確認のみ。</p>	<p>・審議はなかった。</p>

<p>8.4 CISPR14-1, Am1, f6, Ed. 5 新しい統計評価方法</p>	<p>文書：CISPR/F/459/CDV CISPR/F/424/CD CISPR/F/450/CC (新統計評価法が CISPR16-4-3 で発行されたことを受けて、 CISPR14-1 の関連規定を改定)</p>	<p>・投票期限が 12 月 21 日のため、CDV 発行の確認のみ。</p>	<p>・審議はなかった。</p>
<p>8.5 CISPR14-1, Am1, f8, Ed. 5 ロボット掃除機</p>	<p>文書：CISPR/F/457/CD CISPR/F/XXX/CC CISPR/F/428/CD CISPR/F/461/DA CISPR/F/452/CC 自動電池動作掃除機 (ABPC) の試験 条件の審議</p>	<p>・我が国の修正提案を反映させるように努める。</p>	<p>・韓国・日本・英国によるアド ホックグループで修正案をま とめ 3rd CD を作成する。(リ ーダーは韓国)</p>
<p>8.6 電池動作機器</p>	<p>文書：CISPR/F/455/DC CISPR/F/463/INF モータを内蔵しない小型の電池動作 機器の試験を不要とする提案に対す るコメントを審議し、 CISPR/F/453/CDV に含めるかどう かを決定する。</p>	<p>・我が国の提案に基づく審議であり、採 用されるように努める。</p>	<p>・妨害の可能性に関する議論で は解決に至らなかったため、 測定を除外する電池動作機器 を無線式以外のリモコンに限 定することで反対意見に対応 することになった。 ・この提案は 453/CDV から切り 離し CD を作成する。(最終的 には FDIS に含まれる見通し) ・CD 作成のリーダーは日本で、 Convenor, Co-convenor が参 加。</p>
<p>8.7 誘導加熱式調理器</p>	<p>文書：CISPR/F/445/INF CISPR/F/456/DC CISPR/F/464/INF 誘導加熱式調理器を CISPR11 の適用</p>	<p>・CISPR14-1 に移行することにより、放 射電界の測定から妨害波電力の測定 に変更される提案に対して、我が国と しては、混乱を避けるため両方の測定</p>	<p>・日本のコメントに対して規格 の移行には経過措置が設けら れるので混乱はないはずだと の反論があった。</p>

	<p>範囲から CISPR14-1 の適用範囲に移行することについて、コメント及び次の段階の審議を行う。</p>	<p>法を認めるように主張している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CISPR14-1 においては、測定周波数を拡大して放射電界の試験を導入しようとしているので、そのときは放射電界測定が復活することになり、さらに混乱が予想されるので、電界測定のルートを残すように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には CISPR11 の試験法と許容値をそのまま 14-1 に移すが、放射妨害波の測定については、妨害波電力の測定を基準とする可能性が大きい。 ・ CISPR11 は現在改訂中なので、SC-F では改訂内容が固まるまで待って新たな DC を作成することにした。 ・ その後に行われた SC-B で CISPR11 第 5 版の CDV が可決されたことが明らかになったので、その内容と整合させた CD を作成することになる模様。 ・ CD 作成のリーダーはドイツで Convenor, Co-convenor が補佐するが、要請により日本も参加。
9. CISPR14-2 関連の審議			
9.1 CISPR14-2, Ed. 1.0 の改訂	<p>文書 : CISPR/F/454/CDV CISPR/F/428/CD CISPR/F/447/CC CISPR14-2 が引用している基本規格の最新化に関連する修正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 投票期限が 9 月 28 日のため CDV 発行の確認のみ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審議はなかった。 ・ スペインから ESD (静電気放電イミュニティ) 試験に関する提案があったが、WG1 で審議の結果、CISPR14-2 から関連する NOTE を削除することの可否を問う Q 文書を発行することになった。
10. WG2 の Convenor からの報告		<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンベナから新規規格体系の検討状況などの報告があった。

11. CISPR15 関連の審議			
11.1 編集委員会から提案されている CISPR15 の変更	<p>文書：CISPR/F/413/DC CISPR/F/465/INF</p> <p>CISPR15 の新規格体系への変更案の審議を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規格体系の概念について説明があるので確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・編集委員会のリーダーから新規格体系の説明があり、日本から基本的に賛成するが、能動的部品と受動的部品の定義を明確にする必要があると提案した。 ・次回委員会までに編集委員会が更に具体的な資料を作成することになった。
11.2 30M~300MHz の放射妨害波の許容値の導入、CISPR15 Ed7 Am1 の発行		<ul style="list-style-type: none"> ・確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2006年10月にこの修正1が発行されていることが報告された。
11.3 測定の不確かさの導入と販売の禁止条項の削除	<p>文書：CISPR/F/426/CD CISPR/F/451/CC CISPR/F/466/CDV</p> <p>測定の不確かさの導入と販売の禁止条項の削除に関する CISPR15 修正の CDV 化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この投票文書が回覧中であり、2008年2月15日が締切であることが報告された。

<p>11.4 ネオンサイン及びその他の広告用サインとキセノンランプを用いたフラッシャー形非常時照明器具</p>	<p>文書：CISPR/F/429/Q CISPR/F/467/INF</p> <p>ネオンサイン、及びその他の広告用サインとキセノンランプを用いたフラッシャー形非常時照明器具に対する要求事項の見直しを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本からネオンサインでは干渉問題は報告されていないと回答、またフラッシングの測定方法の技術的検討の必要性を提起しており、我が国の提案を反映させるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツから早急に規制するべきと意見があり、日本からキセノンランプでのフラッシング時の測定方法が確立させてからにすべきと提案した。 ・しかし、時間が掛かり過ぎて待てないので、先ずラジオで非常時放送のある 30MHz 以上の放射妨害波のみを設定することが決まった。 ・ネオンとキセノンに分けて別々の DC を作成することになった。
<p>11.5 周波数範囲の拡大</p>	<p>文書：CISPR/F/453/CDV</p> <p>現行の周波数範囲を現行の上限 300MHz から 1000MHz までに拡大する提案。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の KISTA 会議で、この検討に関しては CISPR14-1 の結果後に行うことが決定されているので次回委員会で行うことになった。
<p>11.6 CDN 法の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に修正 1 として導入された CDN 法について CDN の仕様の違いにより、測定値に差があることが報告され、その対策案の提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツからこの問題点の報告とその原因推定の報告の後、対策方法として、測定時の設置方法の修正と CDN の仕様の限定の提案があった。 ・標準測定法と代替法との関連から、CISPR/A との JTF で再検討することが決まった。 ・また、F/WG2 に設立されたアドホックグループで事前に CDN 法の検討を行うことになり、日本も参加することにした。

<p>11.7 ロープ・ライトの測定法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス・ツリーのような装飾用の照明装置は設置状態で測定値が異なるので測定方法を特定する提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告を聞き、日本の意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツから直径 60cm の円筒治具に対象器具を巻き付けて測定する提案がされた。 ・日本から円筒治具ではコイル状となって発生するインダクタンス成分により影響があり、8 の字にすべきと提案した。 ・日本とドイツとで検討を継続して CD を作成することになった。
<p>11.8 無電極放電ランプでの放射妨害波の許容値緩和提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・135kHz で動作する無電極放電ランプでの 120- 145kHz における放射妨害波の許容値を 30dB 緩和する提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本からの提案を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この無電極放電ランプに限定して、ラージループアンテナ法での 120k-145kHz における放射妨害波の許容値を 30dB 緩和する提案を行った。 ・根拠として CISPR11 のクラス A、グループ 2 の表 5 にある 150kHz の許容値を 120kHz までに延長した時にその値を満足することを説明した。 ・審議の結果、日本が DC を作成することになった。
<p>11.9 挿入損法の削除の提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタータ形安定器のみを対象とした挿入損法を廃止して雑音端子電圧で規制する提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本からの提案を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この提案に対して、挿入損法は必要な測定方法であるとの反論があった。 ・この提案に関しては現行 CISPR15 第 7 版では扱わず、新規規格体系の中で検討していくことになった。

12. CISPR30 関連の審議			
12.1 CISPR30 関連の技術報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・ CISPR30 の完全改訂か、または HID 用電子安定器用の標準器具と半導体光源用モジュールの技術報告書新規作成かの検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術報告書新規作成を支持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ IEC 事務局から新たに CISPR 番号を採らずに CISPR30 の末尾に-1、-2、-3 を付加して対応する方法が認められた。 ・ 個々の提案に対して、日本からいくつの追加提案を行った結果、日本からも具体的な案を提出して、次回委員会までに CDV を作成することが決まった。
13. 代替試験法	<p>文書：CISPR/1144/INF</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代替試験法に関する CISPR の提案を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営委員会及び総会の決定に従う。 ・ SC-F において Chairman が対象となる複数試験法を特定し、基準となる測定法を決定するよう WG1,2 に指示。議題 8.1 参照。
14. CISPR/A の活動報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ Mr. Deter が CISPR/F に関係がある CISPR/A の活動について報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いくつかのトピックの報告があった。 ・ CISPR15 に採用された CDN 法を CISPR16 に移すため SC-A との合同タスクフォースを立ち上げることになった。
15. 作業計画の更新	<p>文書：CISPR/F/462/PW</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認のみ。

16. その他の作業		<ul style="list-style-type: none"> ・状況を見て対処する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアがインバータエアコンによるテレビへの干渉事例について紹介し、現在の CISPR14-1 では防止できないとの問題提起をしたが、具体的な検討については実質的な審議はなかった。
17. 次回会議の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・日本(大阪)の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・歓迎の辞とともに、会議場等の紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内委員会 F グループ藤原主任が2008年10月20日から29日の間に大阪で開催されるSC-F 関連会議について、歓迎の辞とともに、会議場へのアクセスのしかたなどを紹介した。 ・F/WG1 は今回審議できなかった作業を進めるために、大阪会議に先立って2008年1月29・30日にもオランダのアイントホーヘンで開催することになった。
18. 閉会			